

関西あそび西歩

KANSAI ASOBO

京都・大阪・神戸・堺 まち歩きラリー

「黄金の日」の栄光をもとめて ～土居川、ザビエル公園から鉄砲鍛冶屋敷まで～

戦国時代の環濠自治都市・堺。それは宣教師たちが「東洋のヴェニス」と讃え、武野紹鷗や千利休といった当代一流の文化人・茶人が天下人の信長や秀吉と交流した「黄金の日」でした。その面影を求めて、堺のまちを歩いてみましょう。

① 内川・土居川

戦国時代の堺は日本一の貿易港として栄え、商人たちは外敵の侵入を防ぐために環濠を作り、これが土居川の始まりです。一時期、豊臣秀吉によって埋められましたが、大坂夏の陣で堺が焦土と化すと、徳川幕府は「元和の町割」と呼ばれる都市復興を行い、そのさいに環濠も復活しました。これが今の土居川で、土居(土堤防)を築いたのが名前の由来です。その後、大和川の付替えて土砂が堆積したため、町の西側に新たに作られた堀が内川です。

② ザビエル公園

天文19年(1550)に堺に来たイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルを手厚くもてなした豪商・日比屋了慶の屋敷跡につくられた公園です。昭和24年(1949)に、ザビエル来航400年を記念して「ザビエル公園」と命名されました。

③ 菅原神社

社伝によれば菅原道真自作の木像が堺浜に漂着し、これを祀ったのがはじまりといわれています。延宝5年(1677)に鉄砲鍛冶・榎並屋勘左衛門の寄進で建てられたという楼門があり、大阪府指定有形文化財となっています。江戸時代初期に建てられた茶室「紅梅軒」や、千利休の師匠・武野紹鷗が愛用した「椿の井」などがあります。

④ 堺刃物伝統産業館

堺の刃物を中心とした伝統産業のミュージアムです。打刃物の製造工程の見学や、刃付け・研ぎ教室などの体験などを行っています。また堺の地場産品の展示・販売も行っています。

⑤ 妙國寺

永禄5年(1562)日蓮宗の学僧・日珙によって開基。国指定天然記念物で、樹齢1100年を超える大蘇鉄が有名です。この蘇鉄は戦国時代に織田信長の所望で安土城に移植されましたが、夜ごとに「堺に帰りたい」と泣き、激怒した信長が切り倒そうとすると切り口から鮮血を流し、恐れをなした信長は再び妙國寺に返したという伝説があります。また慶応4年(1868)の堺事件(堺港に上陸したフランス軍艦兵と土佐藩士の殺傷事件)で、土佐藩士11名が切腹した地としても有名です。

⑥ 本願寺堺別院

堺市最大の木造建築で「北の御坊」と呼ばれます。本堂は文政8年(1825)に再建され、明治4年(1871)の廃藩置県後から10年間、堺県庁として使用されました。明治当初の堺県は旧天領地だけでしたが、明治2～9年に河内県、丹南4県、奈良県などを合併。広大な県域を有しましたが政府の方針で明治14年(1881)に大阪府に併合されました。鐘楼に釣られた梵鐘は元和3年(1617)の銘をもち、慶長20年(1615)の大坂夏の陣で焼失した念仏寺(開口神社の神宮寺)のために再鑄したもので、明治初期の廃仏毀釈で堺別院に移されました。堺市内最古の梵鐘として貴重なものです。

⑦ 覚応寺

正中2年(1325)、伊予の豪族・河野通元が本願寺覚如上人に帰依して覚応と改名し、九州の霧島山麓に覚応坊を建立。その後、堺に移転しました。当寺の住職・河野鉄南氏は与謝野鉄幹と晶子をひきあわせた人物として知られています。境内には晶子の歌碑があり、毎年5月29日の晶子の命日には白桜忌が行われます。

⑧ 山口家住宅

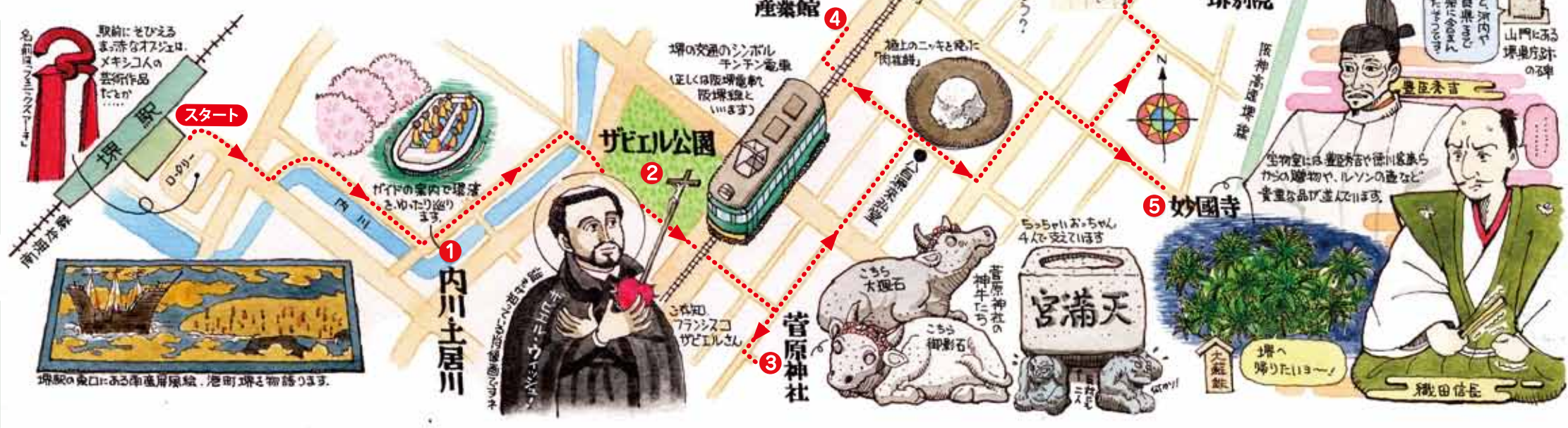
慶長20年(1615)、大坂夏の陣により堺が全焼した直後に建てられ、数少ない江戸初期の町家として昭和41年(1966)に国の重要文化財に指定されました。江戸時代の堺衆は「京の着倒れ、大坂の食い倒れ、堺の建て倒れ」といわれるほど建物に贅を凝らしましたが、山口家はその証しといえます。

⑨ 鳳翔館

大正時代の町家を活用した展示&休憩スペース。館主が与謝野晶子のファンで、晶子の生家をイメージしています。

⑩ 水野鍛錬所

明治5年(1872)創業。明治時代からの鍛錬工房があります。戦後まもなくの法隆寺大改修のさいに、300年に一度かけかえられる国宝五重塔九輪の「魔除け鎌」を鍛造して奉納。法隆寺の1300年前ともいわれる古釘を集めて作った魔除け鎌を展示、実際に手に持つこともできます。



⑪ 鉄砲鍛冶屋敷

「鉄砲記」(1606年頃・南浦文之玄昌著)には、天文12年(1543)、種子島に鉄砲が伝来すると、堺の商客之徒・橋屋又三郎が来島して鉄砲製法を学び、堺に伝えて「鉄砲又」と呼ばれたとあります。和歌山市・金剛宝寺には「那賀郡堺鑄工橋屋又三郎」銘の天正3年(1575)の梵鐘があり、又三郎は鉄砲、梵鐘など金属を扱う鑄物師と推測されています。いずれにせよ鉄砲製法が堺に伝わりと堺は瞬く間に日本一の鉄砲生産地になりました。鉄砲鍛冶屋敷は江戸時代から続く鉄砲鍛冶・井上関右衛門の居宅で堺大絵図(1689)にも記載され、最古級の町家建築かつ堺鉄砲の生産現場が残る貴重な建築物で、市の指定有形文化財です。多くの鉄砲史料や日本一といわれる高さ1メートル、長さ2メートル余りの轆(ふいご)が保存されています。

⑫ 薫主堂

江戸末期の建物。創業明治20年(1887)で、120年以上になる天然香料を使った手作り線香の店です。店主は2002年に堺市から「堺ものづくりマイスター」に選ばれました。

⑬ 高須神社

根来で初めて火縄銃を制作した芝辻清右衛門妙西の孫・理右衛門(?～1634。名は助延、号は道逸)ゆかりの神社です。理右衛門は慶長16年(1611)に銃身1丈(約3メートル)、口径1尺3寸(約39センチ)、砲弾1貫500匁(約5.6キロ)の我が国初の大筒を家康に納入。慶長19年(1614)大坂冬の陣でも家康に三匁五分玉の鉄砲500丁、六匁玉の鉄砲500丁を納入して戦場では火縄銃修理を行いました(豊臣方からも鉄砲500丁を受注しますが納入記録が残っていません)。以上の功績で元和元年(1615)に高須に土地を賜わり、社を建てました。境内北側になどと願いが叶うという満願石があります。

この地図は「関西あそび」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

関西あそびのコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。